

絵画と物語

担当教員 山口藍、工藤礼二郎
受講アトリエ【601】

2025/11/07(金)-12/02(水)
9:20-12:30/13:30-16

授業内容
描こうとする題材（テーマ）を任意の物語や散文などの一場面に設定し、それを絵画作品として表現するために最も適した支持体を選び（あるいは作り）制作する。
作品を構成するあらゆる要素に意味を持たせたり、それを伝えたりできると意識することで、作品制作において色々な角度から思考し掘り下げていくことにつなげていく。
※キャンパス以外にも、あらゆる物に支持体の可能性を探ってみること。

授業スケジュール／計画							
		指導	1限	2限	指導	3限・4限	備考
1	11月7日	金 ○	オリエンテーション		○	制作	
2	11月8日	土	—	絵画講座		—	
	11月9日	日					
3	11月10日	月	制作		○	制作	
4	11月11日	火	制作			制作	
5	11月12日	水	制作			制作	
6	11月13日	木	制作			海外講座	
7	11月14日	金 ○	制作			制作	
8	11月15日	土	—	絵画講座		—	
	11月16日	日					
9	11月17日	月	制作		○	制作	
10	11月18日	火	制作			制作	
11	11月19日	水	—	詩と表現		制作	
12	11月20日	木	制作			制作	
13	11月21日	金	制作		○	制作	
14	11月22日	土	—	絵画講座		—	
	11月23日	日					
	11月24日	月	振替休日				
15	11月25日	火	制作		○	制作	
16	11月26日	水	制作			制作	
17	11月27日	木	制作			制作	
18	11月28日	金	制作		○	制作	
19	11月29日	土	—	絵画講座		—	
	11月30日	日					
20	12月1日	月 ○	制作		○	制作	
21	12月2日	火	制作			制作	
22	12月3日	水	—	詩と表現	○	制作	講評は12月5日午後へ変更

学習目標

支持体と描画の関係性
平面絵画において、特に支持体が作品の内容にもたらす影響を改めて考え、実際の制作を通して描画との相互の関係性を探る。

予習・準備物

こちらで用意した物語や詩の中から各々興味あるものについて読み込みや必要なリサーチをし、新たに発見・想像した解釈を絵画にしていく。
内容に相応しい支持体の素材を同時進行で考えていくため、普段からキャンパス以外で支持体として使用してみたいものや可能性のあるものを考えておく和良好的。

注意事項

自分が選択した題材および素材に真摯に向き合い、今後の制作活動にもつなげていけるような作品にするため、指導日には必ず話し合えるようにしましょう。
※ 状況により講評がzoomになる場合、可能な限り前日までに学校に課題を提出しておいてください。(課題内容の性質上、質感なども含め講評するため)

評価方法

課題提出による採点

取材と制作

担当教員 室井公美子

受講アトリエ 【601】

2025/12/4(木)- 12/12(金)

9：20-12：30/13：30-16：30

授業内容

本授業では、学生各自の制作の出発点となる「取材（リサーチ）」を重視し、観察・記録・採取・調査など、作品コンセプトを組み立てるための方法を確立してゆきます。導入講義では複数の現代作家のリサーチ方法と制作プロセスを参照し、独自の思考軸を立ち上げるためのヒントを提示します。その後、個別面談を通じて学生それぞれの「制作の軸」を明確化し、集中的に取材・構想・試作・言語化を行います。最終日には「制作ノート（取材・ドローイング・プロセス・構想の一冊）」を提出し、講評を行います。
この制作ノートは、次の課題「主題研究」で使用します。

授業スケジュール／計画

			指導	1限	2限	指導	3限・4限	備考
1	12月4日	木	○	導入・前提講義／個別面談		○	個別面談	これまでの作品についてや興味のある作家の資料など、面談で話す材料を準備しておくこと。
2	12月5日	金		制作ノート作り(作家研究など)			制作ノート作り(作家研究など)	
	12月6日	土		— 絵画講座			—	—
	12月7日	日						
3	12月8日	月	○	作家紹介(講義)			WS「100のリスト」制作	取材・ドローイング・プロセス・構想メモなど様々なアプローチを行い、思考と試行を深めてゆくこと。
4	12月9日	火		制作ノート作り			制作ノート作り	
5	12月10日	水		制作ノート作り			制作ノート作り	
6	12月11日	木		制作ノート作り		○	制作ノート作り	
7	12月12日	金		制作ノート作り		○	講評会	

学習目標

- 1・主題研究へつながる 個人のテーマや問題意識を発見できる。
- 2・作品の思考過程を ドローイングやプロセスとして可視化 できる。
- 3・取材と観察・記録を用いて 作品の根拠を築くリサーチの方法論を理解 できる。
- 4・収集した資料・スケッチ・文章を組み合わせ、制作ノートとして構成 できる。

予習・準備物

- 1・F6程度のクロッキー帳もしくはスケッチブック
- 2・ドローイングなどに必要な画材
- 3・作家研究に必要な資料

注意事項

授業中は、制作に集中すること。迷惑なるような行為は厳禁。
他者への配慮を心がけ、お互いが気持ちよく制作できるアトリエ空間にすること(制作場所の整理整頓)
授業に必要なない行為(ゲームなど)、制作に差し支える行為などをしないこと。

評価方法

- ① F6程度の制作ノート(20ページ以上)
- ② 発表内容
- ③ 取り組み姿勢 (注意事項が守れない場合減点)

詩と表現

担当教員 田野倉康一

受講アトリエ【501】

2025/11/05(水)-2026/02/18(水)

11：00-12：30

授業内容

受講者がそれぞれに詩に触れ、受容し、詩作することを通して、他人の言葉に左右されることなく、ファインアートやデザインの実践の中で言葉とうまく付き合っていけるようになること。

授業スケジュール／計画

			指導	1限	2限	指導	3限・4限	備考
1	11月5日	水	○	—	オリエンテーション		実技カリキュラム	
2	11月19日	水	○	—	叙事詩と抒情詩／具象と抽象		実技カリキュラム	
3	12月3日	水	○	—	作品購読、実技指導		実技カリキュラム	
冬季休暇								
4	1月7日	水	○	—	作品購読、実技指導		実技カリキュラム	
5	1月21日	水	○	—	作品購読、実技指導		実技カリキュラム	
6	2月4日	水	○	—	作品購読、実技指導		実技カリキュラム	
7	2月18日	水	○	—	講評会		実技カリキュラム	

学習目標

今回は実技を中心に考えています。やってみるとわかりますが、詩は美術に近い。日常言語の呪縛を破って、言葉でも自分の世界を作って未知の領域に足を踏み入れてみましょう。

予習・準備物

できれば図書館などで、思潮社の現代詩文庫シリーズなどを見て、好きになれそうな詩人を見つけておいてもらおうとベストです。それから、雑誌『現代詩手帖』の一昨年(2024)の六月号で詩と美術の特集をやっているので、これも図書館などで目を通しておいてもらえれば、話がわかりやすいかもしれません。

注意事項

この授業を有意なものとするかは徹底的に本人次第です。それが「詩」を自らのものとする第一歩です。

評価方法

作品及び毎回配布するレジュメの提出により採点する。

イラストレーションB（絵画）

担当教員 須田浩介

受講アトリエ【601】 2025/10/27(月)-2025/11/06(木)
9:20-12:30/13:30-16:30

授業内容
4枚の作品を描く。描くテーマは各自で決めて良いです。自分なりに表現のフォーマットを考えてから描く。描くもののテーマ、コンセプト、発表する際のブランディングを意識する。テーマ例、四季、トランプ、方角、喜怒哀楽、etc
分かりやすいので4にまつわるものを例に出しましたが別にそこはそんなに意識しなくても良いです。自分の好きな物事などに絡めて自分の表現の枠で4枚描く。

授業スケジュール／計画

			指導	1限	2限	指導	3限・4限	備考
1	10月27日	月		—		○	オリエンテーション	ガイダンス後案出し
2	10月28日	火		案出し		○	案出しチェック	各自4枚のテーマやフォーマットが決まったら制作に入れます。チェックを通さずに4枚描き始めない様にしてください。
3	10月29日	水		案出し・制作			案出し・制作	
4	10月30日	木		制作			制作	
5	10月31日	金	○	制作・経過報告		○	制作・経過報告	
6	11月1日	土		— /絵画講座			—	
	11月2日	日						
7	11月3日	月		制作		○	制作	
8	11月4日	火		制作			制作	
9	11月5日	水		— /詩と表現			制作	
10	11月6日	木	○	講評			—	

学習目標
イラストレーターがクライアントワークで行うアイディア出しラフの提出などのプロセスを活かし制作に取り組みアーティストとしてもイラストレーターとしても必要なコンセプトと作品表現とを繋げる力を伸ばす。アナログ画材を使用し与えられた枠組みの中で作品を制作する上で個々の持つ個性や表現を活かしながらより魅力的な作品表現となる様に作品を描く上でのコンセプトと「何故」をよく考えながら表現に繋げ自分の表現や世界観をブランディングしていく為の授業です。

予習・準備物

学生準備物：画材はアナログツールであれば自由、作品の支持体も自由(サイズはA4サイズ以上)、サイズは4枚とも揃える事。

注意事項

制作に必要な画材は自分で用意してもらうことになります。自分の表現を発揮できる支持体や描画材を選び自分の世界観を遺憾なく発揮し制作をしてください。

評価方法

課題提出と授業態度で評価する。

抽象絵画考

担当教員 徳永陶子、工藤礼二郎
受講アトリエ【601】

2025/10/09(木)-10/24(金)
9：20-12：30/13：30-16：30

授業内容
20世紀初頭に誕生した抽象絵画という概念や形式はどのようなものなのか。またそれらは21世紀の現在においてどのように引き継がれるであろうか。概念的な思考の前にまずは抽象の様々なあり様を描くことを通して体験し、自らの表現として獲得しうるかを試みる。具象を否定するのではなく、表現を広げること。身体の動きやリズムを痕跡として描いてみる。
素材そのものの力（質感・重さ・にじみ方など）を活かす。感情や記憶を、形に頼らず色や線に置き換えてみる。例えば音楽や文学から色・線・形で表してみる。

授業スケジュール／計画									
			指導	1限	2限	指導	3限・4限	備考	
1	10月9日	木	○	ガイダンス、工藤先生と抽象絵画についての歴史を追いつながりながらスライドを見ていく。		○	個人面談今までの制作について一人一人と話します。 今まで制作した写真資料を用意してください。 「抽象絵画にどんなイメージを持っているか事前に考えておいてほしいです。」		
2	10月10日	金		どのような素材を使うかのそれぞれ検討しながらエスキースを開始素材も集めてくる			どのような素材を使うかのそれぞれ検討しながらエスキースを開始素材も集めてくる		
3	10月11日	土		— 絵画講座			どのような素材を使うかのそれぞれ検討しながらエスキースを開始素材も集めてくる		
	10月12日	日							
	10月13日	月		スポーツの日					
4	10月14日	火		写真と美術		○	エスキースの進捗状況を見ながら話し合い作品の方向性を絞っていく。		
5	10月15日	水		エスキース可能な人はそろそろ作品を作り出す。			可能な人はそろそろ作品を作り出す。		
6	10月16日	木		可能な人はそろそろ作品を作り出す。			可能な人はそろそろ作品を作り出す。		
7	10月17日	金	○	本作品制作、エスキースからの流れで進捗状況と一緒に話し合い見ていく。		○	本作品制作、エスキースからの流れで進捗状況と一緒に話し合い見ていく。		
8	10月18日	土		— 絵画講座			—		
	10月19日	日							
9	10月20日	月		本作品制作			本作品制作		
10	10月21日	火		写真と美術		○	本作品制作		
11	10月22日	水		本作品制作		○	本作品制作		
12	10月23日	木		本作品制作			本作品制作		
13	10月24日	金		本作品制作		○	講評会		

学習目標
抽象絵画が難解で分かりづらい芸術であるという呪縛から解き放ち、表現手段の一選択肢として考慮できるようにする。抽象絵画について改めて考えてみる。これまでの制作方法に新しい要素を取り入れること。各自が「どのような素材を使い、どのように描くか」を探ること。エスキースに時間をかけること。

予習・準備物
抽象絵画を考えながら、同時にこれまでのそれぞれの制作方法に新たなエレメントを見つけることもこの課題の目的の一つである。それぞれがどのような素材を使い、どのように描くかを個別に検討していく。オリエンテーション午前中前提の講義は工藤先生とスライドを中心に抽象絵画の歴史を見ていきます。

（オリエン午後徳永）午後は午前中の工藤先生の前提講義を参考に学生が何をきてきて何を抽象表現として考え、制作してみたいかという話を一人一人と話していきながら方向性を探っていきます。
素材は自由ですが大きさはキャンバスだと最大で30号くらいまで。紙類、布類などでしたらそれぞれの場所で可能なものを制作という前提で行う。
身体的な動きか又は表現や今まで使ったことのない素材から入る制作を念頭に制作してもらう。

学生の準備としては、「抽象絵画にどんなイメージを持っているか事前に考えておいてほしいです。」一人一人と話時に教えてください。できれば自分が好きな抽象絵画などあれば教えてください。
それから自分が使ってみたかった素材を集めておくこと。素材は自由、自然から採取してきたものでもいいです。

注意事項
配布資料をよく読んでください。

評価方法
提出課題による採点 作品提出1点以上＋ドローイング（上限なし）。

物質と絵画

担当教員 伊藤泰雅
 受講アトリエ【601】

2025/09/16(火)-10/07(火)
 9:20-12:30/13:30-16:30

授業内容

これまでの制作から主題・モチーフを決める。画用紙以外の支持体にドローイング・コラージュなどでエスキースを重ねる。その際に応じた支持体の物質からキャンヴァスに下地を施す。物としての強度について意識しながら作品を制作する。

授業スケジュール／計画

			指導	1限	2限	指導	3限・4限	備考
1	9月16日	火		写真と美術		○	オリエンテーション	
2	9月17日	水		エスキース支持体		○	エスキース	
3	9月18日	木		エスキース		○	下地について	
4	9月19日	金		エスキース		○	下地作り	
5	9月20日	土		下地作り			—	
	9月21日	日						
6	9月22日	月		エスキース→タブロー			エスキース→タブロー	
	9月23日	火		秋分の日				
7	9月24日	水		エスキース→タブロー		○	エスキース採点	
8	9月25日	木	○	タブロー		○	タブロー	
9	9月26日	金		タブロー		○	タブロー	
10	9月27日	土		タブロー			—	
	9月28日	日						
11	9月29日	月		タブロー		○	タブロー	
12	9月30日	火		写真と美術		○	タブロー	
13	10月1日	水	○	タブロー		○	タブロー	
14	10月2日	木		タブロー		○	タブロー	
15	10月3日	金		タブロー			タブロー	
16	10月4日	土		—	絵画講座		—	
	10月5日	日						
17	10月6日	月		タブロー		○	タブロー	
18	10月7日	火		写真と美術		○	講評	

学習目標

主題を明確化し、素材と手法の選択の過程で、作家としての自覚とこだわりを喚起する。物質性、絵画性の両面から制作を見直し、完成度の高い作品を1点（F20号）制作する。

予習・準備物

制作ノート（テーマ、モチーフを書き出しておく） モチーフ資料（これまでの作品、描きたい物、写真、画像等）エスキースのための段ボール、紙やすり、ビニール、厚紙、等。

注意事項

エスキースの支持体の選択。タブローの下地の作り方。

評価方法

エスキース、タブローの2点を採点。下地についての理解度、作品の完成度、魅力から総合的に評価。

創形祭出品作品

担当教員 室井公美子、工藤礼二郎
受講アトリエ 【601】

2025/09/01(月)- 09/09(火)
9：20-12：30/13：30-16：30

授業内容

創形祭での展示を目標とし、これまでの学習で得た知識や技術を活かし、自由なテーマで絵画作品を制作します。既成概念にとらわれず、新しい表現方法や多様な画材、技法を積極的に探求・実験し、独創性豊かな作品の完成を目指すことを求めます。

授業スケジュール／計画

			指導	1限	2限	指導	3限・4限	備考
1	9月1日	月		制作		○	制作	
2	9月2日	火		写真と美術			制作	
3	9月3日	水		制作		○	制作	
4	9月4日	木		制作			制作	
5	9月5日	金		制作			制作	
6	9月6日	土		制作			—	
	9月7日	日						
7	9月8日	月		制作			制作	
8	9月9日	火		写真と美術		○	制作	

学習目標

これまでの学びを基盤とし、取材を通して新たな視点や発想を獲得し、独自の絵画空間を創造・探求することで、自身の世界観を深化・拡張することを目指します。

予習・準備物

キャンバス、イラストボード、紙などの絵画作品制作に必要な画材を各自用意すること。

注意事項

他の学生の作品も参考にし、多様な表現方法を学ぶこと。
授業中は、制作に集中すること。
他者への配慮を心がけ、お互いが気持ちよく制作できるアトリエ空間にすること。

評価方法

取り組み姿勢

写真と美術 2

担当教員 松蔭浩之
受講アトリエ【502】（仮）

2025/09/02(火)- 10/21(火)
9：20 - 12：30

授業内容
歴代写真家の作品を紹介し、読み解きながらの座学と、デジタルカメラの扱い方を指導しつつ、ワークショップ形式で制作を重ねる。

授業スケジュール／計画

			指導	1限	2限	指導	3限・4限	備考
1	9月2日	火	○	写真ってなんだ？			実技カリキュラム	
2	9月9日	火	○	デジタルカメラ入門1			実技カリキュラム	
3	9月16日	火	○	私の写真論1-B／マン・レイを「味わう」			実技カリキュラム	
	9月23日	火	秋分の日					
4	9月30日	火	○	私の写真論2-B／WS「ないものを写す」			実技カリキュラム	
5	10月7日	火	○	デジタルカメラ入門2／スティルライフ			実技カリキュラム	
6	10月14日	火	○	WS「セルフポートレート」			実技カリキュラム	
7	10月21日	火	○	グループ展示／講評会			実技カリキュラム	

学習目標
写真の成り立ちから、構図や光の捉え方などを享受しつつ、「写真とはなにか？」を考察し、絵画制作に活用することを目標にする。

予習・準備物
カメラ（フィルム、デジタル問わず）。スマートフォンでも可

注意事項

評価方法
授業態度及び提出課題による採点

絵画講座

担当教員 宮田徹也

受講アトリエ【501】 2025/10/04(土)-2026/01/17(土)
11:00-12:30

授業内容
宮田徹也『芸術を愛し、求める人々へ』（論創社 | 2020 年 | ISBN978-4-8460-1895-5 C0070）の該当箇（章を跨いだ通し番号）を予め読んで来てください。その上で考え、質問し、意見を交換する。意思が通じるコミュニケーションは、対面でもオンラインでも可能だ。レポートとは課題ではなく、自主的な筈だ。予習、学習、復習は、一生、続いていく。

授業スケジュール／計画

			指導	1限	2限	指導	3限・4限	備考
1	10月4日	土	○	—	オリエンテーション。		—	
2	10月11日	土	○	—	受講生作品紹介。		—	
3	10月18日	土	○	—	『芸術を愛し、～』感想と問題点議論。		—	
4	10月25日	土	○	—	ハンナ・アーレントの思想と芸術。（図書新聞）		—	
	11月1日	土		—	休講		—	
5	11月8日	土	○	—	カルロ・ロヴェッリの思想と芸術。		—	
6	11月15日	土	○	—	楠木建『ストーリーとしての競争戦略』と芸術。		—	
7	11月22日	土	○	—	ネアンデルタール人とホモサピエンス。		—	
8	11月29日	土	○	—	GAF Aと5Gとこれからの芸術。		—	
9	12月6日	土	○	—	様々な音楽と美術。		—	
10	12月13日	土	○	—	暗黒舞踏という芸術。		—	
冬季休暇								
11	1月10日	土	○	—	受講者達のリクエスト授業。		—	
12	1月17日	土	○	—	まとめ。		—	

学習目標
芸術を通じて、人間を知る。己と他者を区別して考え、他者と自己の気持ちを理解し、他者の立場になって自己を考える。人間を知るためには、人文科学、自然科学、科学に定義されていないものも学ぶ必要がある。芸術が、人間を取り巻く事物と事象のどこに位置するのかを確認しなければならない。それを、制作に繋げる。

予習・準備物
予め『芸術を愛し、求める人々へ』（論創社 | 2020年）を読み終えて授業に参加して下さい。各授業で参考文献のコピーを配布します。

注意事項
出席重視です。うまく言葉にならなくとも発言するように頑張ってください。できるようになりたいと願えば、叶います。しかし願わなければ、何も進まないのです。難しいことを考えずに、直感で発言しましょう。発言することで、自己を発見することができます。そして、互いの話を良く聞き、解釈し、発言のキャッチボールを目指しましょう。苦手を克服し、楽しく授業を共に行いましょう。

評価方法
レポート提出による採点。50%。毎回白紙を配布しますので、そこにメモして提出して下さい。出席50%。

絵画演習ーコラージュから絵画へ

担当教員 室井公美子
受講アトリエ 【601】

2025/06/23(月)- 07/12(土)
9：20-12：30/13：30-16：30

授業内容
コラージュを絵画の出発点とすることで、構成力を養い、組み合わせによる視覚効果を理解します。また、コラージュの要素を模写することで、観察力と描写力を高め、絵画表現の幅を広げることを目指します。

授業スケジュール／計画

			指導	1限	2限	指導	3限・4限	備考
1	6月23日	月	○	導入・前提講義			コラージュ準備	コラージュに必要な資料を集める
2	6月24日	火		造形演習		○	コラージュ制作	
3	6月25日	水		コラージュ制作			コラージュ制作	
4	6月26日	木		コラージュ制作			コラージュ制作	
5	6月27日	金		コラージュ制作		○	コラージュ制作	
6	6月28日	土	○	コラージュ講評			－	着彩に必要なものを準備しておく
	6月29日	日						
7	6月30日	月		油彩(アクリル)制作			油彩(アクリル)制作	
8	7月1日	火		造形演習		○	油彩(アクリル)制作	
9	7月2日	水		油彩(アクリル)制作		○	油彩(アクリル)制作	
10	7月3日	木		油彩(アクリル)制作			油彩(アクリル)制作	
11	7月4日	金		油彩(アクリル)制作		○	中間講評	
12	7月5日	土		油彩(アクリル)制作			－	
	7月6日	日						
13	7月7日	月		油彩(アクリル)制作			油彩(アクリル)制作	
14	7月8日	火		造形演習			油彩(アクリル)制作	
15	7月9日	水		油彩(アクリル)制作		○	油彩(アクリル)制作	
16	7月10日	木		油彩(アクリル)制作			油彩(アクリル)制作	
17	7月11日	金		油彩(アクリル)制作		○	講評会	
18	7月12日	土		アトリエ掃除			－	各自、制作場所の整理をすること

学習目標

この授業では、コラージュを出発点として、**自身の絵画表現の可能性を自ら押し広げていくことを目指します。**
①構成力を探る: **B2サイズのコラージュ制作**を通して、既成概念にとらわれずに画面を組み立てる構成力を探求します。
②視覚効果を使いこなす: 素材の組み合わせや配置によって生まれる多様な視覚効果を発見し、それを自らの表現意図に合わせて使いこなす術を学びます。
③観察力と描写力を深化させる: コラージュの複雑な要素を取捨選択しながら **F15 号のキャンパスに描写すること**で、それを再現する描写力と絵画の構成力を深化させます。

予習・準備物

エスキースに必要な画材: **クロッキー帳、鉛筆、色鉛筆など**
コラージュに必要な画材: **のり、ハサミ、カッター、コラージュに必要な任意の写真、雑誌、画像のコピーなど**
着彩に必要な指示体: **F15号キャンパス、着彩用具 (油彩、アクリル)**

*コラージュに必要な指示体は、学校で準備します: パネル、B2画用紙

注意事項

他の学生の作品も参考にし、多様な表現方法を学ぶこと。
授業中は、制作に集中すること。
他者への配慮を心がけ、お互いが気持ちよく制作できるアトリエ空間にすること。

評価方法

①コラージュ作品 ②コラージュを元にしたF15号の着彩作品 ③レポート ④取り組み姿勢

2年 ファインアート科絵画専攻

絵画の空間

担当教員 山本品
受講アトリエ【601】

2025/06/04(水)-06/21(土)
9:20-12:30/13:30-16:30

授業内容

「絵に描いた餅」という言葉を聞いたことがありますか？ 描かれた餅は食べられません。持つこともできません。ただ、自分が絵の中に入ったら食べられます。熱い餅も気にせず持つことができます。このように絵画には独特な空間があります。昔の作品から現在の作品まで、アーティストやクリエイターはどんな空間を作り出しているのか研究し、作品を作って実践します。

授業スケジュール／計画

			指導	1限	2限	指導	3限・4限	備考
1	6月4日	水	○	オリエンテーション			空間制作	
2	6月5日	木		空間制作			空間制作	
3	6月6日	金	○	空間制作		○	目黒区美術館鑑賞	
4	6月7日	土		空間制作			—	
	6月8日	日						
5	6月9日	月	○	絵画制作			絵画制作	
6	6月10日	火		造形演習			絵画制作	
7	6月11日	水	○	絵画制作			絵画制作	
8	6月12日	木		絵画制作			絵画制作	
9	6月13日	金	○	絵画制作			絵画制作	
10	6月14日	土		絵画制作			—	
	6月15日	日						
11	6月16日	月	○	絵画制作			絵画制作	
12	6月17日	火		造形演習			絵画制作	
13	6月18日	水	○	絵画制作			絵画制作	
14	6月19日	木		絵画制作			絵画制作	
15	6月20日	金	○	講評		○	講評	
16	6月21日	土		片付け			—	

学習目標

モチーフを描く時には必ずその周りの空間こそ描かないと絵は成立しません。
遠近法の発見、カメラの誕生、美術館の登場など、その時代の作品と技術革新の関係を理解し、自分自身の絵画の空間を探ります。

予習・準備物

実際にモチーフを工作で作ります
100円ショップで売っているものを利用するなど、既製品を使うのもいいでしょう
それぞれ必要なもの：カッター、カッターマット、木工用ボンド、のり、はさみ、画材一式、スケッチブックを準備してください

注意事項

目黒区美術館「遥かなるイタリア 川村清雄と寺崎武男」展を鑑賞しに行きます
鑑賞無料、学芸員さんによる解説もあります
日程に変更があり次第すぐ連絡しますので、必ず参加してください

評価方法

出席 制作姿勢 作品

銅版画

担当教員 馬場知子
受講アトリエ【版画工房/601】

2025/05/23(金)-06/03(火)
9：20-12：30/13：30-16：30

授業内容
まずテストプレートで様々なマチエール表現を試しながら「道具、薬品の使い方」「描画」「製版」「刷り」の作業工程を理解し体得していきます。本作では自分のイメージの具現化に必要な表現や技法を選択し制作します。
(わからないことはなんでも聞いてください。安全に楽しく制作しましょう)

授業スケジュール／計画			指導	1限	2限	指導	3限・4限	備考
1	5月23日	金		—		○	講義、デモンストレーション	
2	5月24日	土		制作			—	
	5月25日	日						
3	5月26日	月		制作		○	制作／エスキースチェック	
4	5月27日	火		造形演習		○	制作／エスキースチェック	
5	5月28日	水		制作			制作	
6	5月29日	木	○	制作			制作	
7	5月30日	金		制作			制作	
8	5月31日	土		制作			—	
	6月1日	日						
9	6月2日	月		制作		○	制作	
10	6月3日	火		造形演習		○	講評	

学習目標
銅版画の制作プロセスを修得し、作品を完成させます。銅版画には様々な技法がありますが、エッチングを中心に物質の変容と結びついた腐食技法の多様な表現に触れます。版を媒介することで生じる他者性を柔軟に取り入れながら自分の表現の世界を広げましょう。

予習・準備物
予習：今回自分が挑戦したい表現や描いてみたいテーマがあれば簡単な下絵を用意して見せて下さい。（なくてもよい）準備物：◇インク（シャルボネ 55985.文房堂インク青口）◇グランド◇黒ニス◇裏止め用塩化ビニールシート◇リグロイン◇プリントクリーナー◇人絹◇寒冷紗◇ニードル人数分 スクレーパー パニッシャー◇ハーネミュレ◇ピカール◇青棒◇松脂等アクアチントセット◇スパイクラベンダーオイル◇マットフィルム◇サンドペーパー（60～180番）

注意事項
工房でのルールに則り、機材や材料を適切に扱い安全に努めること。制作に適した服装で臨むこと。サンダル、ヒールは禁止。 ＊エプロン、ビニール手袋（丈夫なもの）持参。＊作品銅版サイズ24×18cm

評価方法
課題作品70％ 制作姿勢（熱意・積極性など）30％

混合技法

担当教員 熊谷宗一
受講アトリエ 【601】

2025/05/07(水)-05/22(木)
9：20-12：30/13：30-16：30

授業内容
有色下地を施したキャンバスにエマルジョンテンペラと油彩の積層からなる描画により、視覚的リアリズムを追求する。

授業スケジュール／計画

			指導	1限	2限	指導	3限・4限	備考
1	5月7日	水		授業準備／図版選定		○	オリエンテーション 地塗り／図版選定	
2	5月8日	木	○	トレース／墨入れ			墨入れ／有色下地塗布	
3	5月9日	金		エマルジョンテンペラによる白色浮出		○	エマルジョンテンペラによる白色浮出	
4	5月10日	土		エマルジョンテンペラによる白色浮出			－	
	5月11日	日						
	5月12日	月	健康診断					
5	5月13日	火		造形演習		○	油彩グレース／白色浮出	
6	5月14日	水	○	油彩グレース／白色浮出			油彩グレース／白色浮出	
7	5月15日	木	○	油彩グレース／白色浮出			油彩グレース／白色浮出	
8	5月16日	金		油彩グレース			油彩グレース／油彩描写	
9	5月17日	土		油彩グレース／油彩描写			－	
	5月18日	日						
10	5月19日	月		油彩グレース／油彩描写			油彩グレース／油彩描写	
11	5月20日	火		造形演習		○	混合白によるハイライト	
12	5月21日	水	○	油彩グレース／油彩描写		○	講評／片付け	
13	5月22日	木		面談（室井先生）			－	

学習目標

ルネサンスから近代に至るまでの西洋絵画の主な油彩技法である油彩とテンペラによる混合技法を習得することを目的とする。

予習・準備物

人物や動物、物などが大きく撮影された写真を3～5枚各自準備する。写真は自分が撮影したもの、そして明暗の対比、光の方向が明確なものが望ましい。
作品のサイズはF4号。
尚写真は初日オリエンテーションの際に講師と共に話し合い、どれか1点を選択し作品の資料とする予定です。

注意事項

評価方法

提出課題による採点

造形演習

担当教員 船井美佐

受講アトリエ 【502】

2025/04/15(火)- 07/08(火)

9：20-10：50/11：00-12：30

授業内容

絵画について伝統的な様式から近現代までのあり方を時代順に比較しながら学ぶことで、現代のまだ見ぬ新しい絵画表現について考えるための基礎的な知識と技術を養う。毎回、美術史のレクチャーの後に、実際の画材や技法を体験し課題を制作する。1、「絵の中」何をどう描くか？ものの捉え方や構図など、対象を2次元に表す方法の様々な様々について。2、「絵の表面」何を使って描くか？絵具や絵肌、支持体など物質としての絵画のあり方の変化について。3、「絵の外側」どのように展示するか？作品と人と空間の関係の多様性について。最後にそれまで学んだことをもとに制作したドローイングを空間にインスタレーションとして構成して講評する。

授業スケジュール／計画

			指導	1限	2限	指導	3限・4限	備考：持ち物（）は学校が用意する物
1	4月15日	火	○	オリエンテーションとアーティストトーク 自己紹介、自分の作品について話す			実技カリキュラム	自己紹介カード、一番気に入っている自分の作品（モニター、マイク）
2	4月22日	火	○	「イメージを形にする①」言葉とコンセプト 世界で活躍する現代アーティスト、オノヨーコ、草間彌生など			実技カリキュラム	鉛筆、消しゴム、アクリルまたは水彩絵具のセット（画用紙カード）
	4月29日	火						
	5月6日	火						
3	5月13日	火	○	「イメージを形にする②」ドローイング 現代のさまざまな絵画表現、抽象と具象			実技カリキュラム	鉛筆、消しゴム、アクリルまたは水彩絵具のセット（画用紙カード）
4	5月20日	火	○	「もののとらえ方①」水墨運筆 東洋絵画の特色、デフォルメ、構図、線と面で捉える			実技カリキュラム	（墨、硯、筆、和紙、絵手本）
5	5月27日	火	○	「もののとらえ方②」デッサン 西洋絵画の始まり、ルネッサンス、遠近法、光と影で捉える			実技カリキュラム	指導：工藤（コンテ、コピー用紙、フィキサチーフ）
6	6月3日	火	○	「構図と色彩」色彩構成 近代化による絵画の変化、マネ、モネ、ゴッホ、ピカソ、			実技カリキュラム	鉛筆、アクリル絵具のセット、定規、コンパス（画用紙、パネル、刷毛、筆洗、水張テープ）
7	6月10日	火	○	「構図と色彩」色彩構成 抽象絵画の始まり、カンディンスキー、モンドリアンなど			実技カリキュラム	鉛筆、アクリル絵具のセット、定規、コンパス（画用紙、パネル、刷毛、筆洗、水張テープ）
8	6月17日	火	○	「身体・物質・偶然性」大画面にドローイング 第二次大戦後の新しい表現、ポロック、ロスコ、具体、アンフォルメルなど			実技カリキュラム	アクリル絵具セット（ブルーシート、板段ボール90×90cm）
9	6月24日	火	○	「空間構成①」 70年代～ポップアート、コンセプチュアルアート、ソルウィット、フランク・ステラ、リヒター、新表現主義～現代の動向まで			実技カリキュラム	アクリル絵具セット、カッター（ブルーシート、板段ボール90×90cm、段ボールカッター）
10	7月1日	火	○	「空間構成②」講評に向けて作品を仕上げる			実技カリキュラム	指導：工藤 アクリル絵具、カッター（シート、板段ボール90×90cm、段ボールカッター）
11	7月8日	火	○	「空間構成③」講評会 1人ずつ壁面に構成する			実技カリキュラム	（布ガムテープ）

学習目標

アーティストとして制作していく上での基礎となる美術の知識を学ぶ。古今東西の絵画にまつわる様式や表現の歴史について知り、さまざまな絵画様式を体験する。これまでの絵画の遍歴や特質を知ることによって現代の自分の位置について考え、自分だけの新しい表現を生み出していくための力を培う。

予習・準備物

この授業では毎回、美術史を時代順に解説し、それと対応した実技の課題に取り組みます。1回の授業につき1つの制作をして毎回提出します。準備物は授業ごとに異なります。基本的な、鉛筆、練りゴム、消しゴム（デッサンのセット）、筆、パレット、アクリル絵具（絵具のセット）は各自用意してください。パネル、紙、特別な画材は学校で用意します。1回目の授業では、自己紹介とアーティストトークの練習を兼ねて、講師が自身の作品について話した後、1人ずつ自分の作品について話します。1人5分程度。自分が今まで作った中で一番気に入っている作品を持ってきてください。事前に自己紹介プリントを記入して提出してください。作品が持ち運べない場合は画像をプリントして持ってきてください。

注意事項

毎回、モニターで美術史上の名画を紹介しながらレクチャーを1時間、その後にそのテーマと関連した実技を2時間行います。導入部分を聞かないと理解できなくなってしまうので遅刻しないように注意してください。古典から現代まで順番に時代を追って体験していく内容となっているので、欠席の無いように。制作の進行状況に合わせて上記の日程は前後することがあります。

評価方法

導入の講義を聞かないと学習できないため出席を重視します。各回のレクチャーの理解度、課題の提出、をそれぞれ各回2~4ポイントとして点数を合計します。さらに、取り組み姿勢と、講評での最終課題の評価を加算して合計を出します。満点は合計100点。欠席した場合は、その回で取り上げた時代と作家について自分で調べてレポートにまとめて感想を書いて提出すること、課題を仕上げて後日提出することによって、それぞれ加算します。（レポートはA4を1枚程度。）

ドローイング

担当教員 室井公美子

受講アトリエ [601]

2025/04/09(水)-04/16(水)
9 : 20-12 : 30/13 : 30-16 : 30

授業内容

「ドローイング表現：新たな視点と思考を自由な素材表現で制作していく」というコンセプトのもとに、既成の技法や形式にとらわれず、自由な発想やアイデアを大切にします。手を動かしながら、自分の中に潜む新たな可能性を発見してゆきます。

授業スケジュール／計画

			指導	1限・2限	指導	3限・4限	備考
1	4月9日	水	○	前提講義・制作	○	制作	
2	4月10日	木		制作		制作	
3	4月11日	金		制作	○	制作	
4	4月12日	土		制作		—	
5	4月13日	日					
6	4月14日	月	○	制作		制作	
7	4月15日	火		造形演習	○	講評会	
8	4月16日	水				—	

学習目標

制作を通じて多様な素材に触れ親しみながら、自身の制作の根幹となるものを発見してゆく。

予習・準備物

ドローイングとは何か、自分なりに調べて考えておきましょう。使用したい素材や画材があれば、適宜持参してください。

注意事項

自分の興味のあるテーマに関わるものことなどの資料を順次用意しておくこと。

評価方法

提出課題及び取り組み姿勢。ドローイング（上限なし）、レポート。

2年ファインアート科絵画専攻

イラストレーションA（絵画）

担当教員 今野樹里恵

受講アトリエ [601]

2025/04/17(木)-2025/4/26(土)

9:20-12:30/13:30-16:30

授業内容

テーマに沿って連作を制作する。既存イメージができているテーマを、自分だけの表現方法で再構成すること。更に複数点制作することにより、自分の持っている世界観や表現方法を統一感のあるものとして表現することを学ぶ。

授業スケジュール／計画

			指導	1限	2限	指導	3限・4限	備考
1	4月17日	木	○	オリエンテーション			制作	
2	4月18日	金		制作		○	制作	
3	4月19日	土		制作			—	
	4月20日	日						
4	4月21日	月		制作		○	制作	
5	4月22日	火		造形演習		○	制作	
6	4月23日	水		制作			制作	
7	4月24日	木		制作		○	制作	
8	4月25日	金		制作			制作	
9	4月26日	土	○	講評			—	

学習目標

テーマに基づくイラストレーション制作を修得します。一つの世界観で一連の作品を制作すること、自分の内面を表現するだけでなく外的要因（テーマ）に応じて制作をすることで、既存の表現に囚われずに新しい自分だけの表現を目指します。

予習・準備物

連作制作に必要な画材（支持体・絵具など）。イメージができてから授業中に用意しても良い。

注意事項

授業時間内に制作完成させること。

評価方法

課題提出と出席で評価する。